

29年11月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 11月1日～ 29年11月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		29/11月	12月	30/1月
伐採動向	スギ	△ 8.3	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 10.0	△ 30.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 16.7
	エゾ・トド	33.3	33.3	33.3
出荷・販売動向	スギ	△ 16.7	8.3	0.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 10.0	△ 30.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 16.7
	エゾ・トド	33.3	33.3	33.3
手持立木 在庫動向	スギ	16.7	0.0	8.3
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0

・スギの伐採動向は11月の減少から12月、1月は横ばいに。ヒノキ、カラマツともは3カ月連続減少。エゾ・トドは3カ月連続増加。

・スギの出荷・販売動向は11月の減少から12月は増加、1月は横ばいに。ヒノキ、カラマツとも3カ月連続減少。エゾ・トドは3カ月連続増加。

・スギの手持立木在庫動向は11月の増加から12月は横ばい、1月は再び増加に。ヒノキ、エゾ・トドとも3カ月連続横ばい推移。カラマツは3カ月連続減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・昨年に比べ天候が良く、順調に伐採が進んでいる（北海道）。
- ・国有林の主伐請負生産事業を継続中（北海道）。
- ・スギ、カラマツともに伐採は控えめでやや減少（東北）。
- ・ヒノキの伐採のみで、スギ、カラマツは伐採なし（中部）。
- ・スギ、ヒノキの主伐を実施。カラマツはなし（中国）。
- ・スギ、ヒノキの間伐を中心に伐採（中国）。
- ・11月末工期のスギ間伐の物件があり、集材を中心に作業を進めている（九州）。

(出材・販売動向)

- ・製材工場や合板工場から素材の引き合いが多く、増加傾向にある（北海道）。
- ・出材調整なし（北海道）。
- ・品不足のため引き合いは多い。価格も上昇気味（東北）。
- ・ヒノキの出材・販売のみで、スギ、カラマツはなし（中部）。
- ・スギ、ヒノキの出材・販売及び手持ち在庫動向は3カ月連続横ばいで推移。カラマツはなし（中国）。
- ・冬季に入り天候や現場環境が悪くなり、12月下旬から出材減となる見込み(中国)。

(手持ち立木在庫)

- ・順調に伐採が進んでいるので、手持ち立木在庫は減少してきている。国有林の立木公売で調達しようとしているが、積算方法が変わったのか、予定価格が高くて落札できないでいる（北海道）。
- ・国有林の請負事業を実施中のため在庫変動なし（北海道）。
- ・スギ、カラマツともに横ばい。例年並み（東北）。
- ・在庫は持っていない（中部）。
- ・スギ、ヒノキの手持ち在庫は横ばい(中国)。